

ラ フォレ セ ラ ヴィ ー森こそ命ー



La Forêt, C'est la Vie !



ナイジェリア北部の町 KANO のラマダン明けのお祭り

きっかけは雑貨でした。20 年ほど前、民芸品の輸入卸の会社で働いていたときにアフリカの雑貨を扱い、その素朴さ暖かさに触れ、それらが作られる文化的背景を知りたいと思いました。それらが持つ“大地に根付いた暖かさ”を日本に紹介したいと思ったんですね。それから 8 年、なぜか日蓮宗のお坊さんの紹介で商社の駐在員としてナイジェリアのラゴスへ行くことになりました。ナイジェリアで過ごした 2 年間に、現地政府や現地企業の職員だけでなく国連職員や NGO スタッフ、現地で会社を立ち上げた方などいろいろな方と知り合うことができました。そしていくつかの国を訪れる機会を得、いろいろな立場から現場を見、多くの団体がアフリカで活動しているのを知りました。アフリカの現状を見、そこで活動している日本人を知るとともに、その方々が日本ではほとんど知られていないことに驚きました。

帰国後、アフリカのいい面を知ってもらいたいという思いと同時に、アフリカの問題と現地で活動する日本人も知ってもらいたいという気持ちから飲食店という“場”を作ろうと決心しました。自分で新たに NGO 団体を作るよりも現在活動している団体を応援したほうが効果的であり、自分が役に立てるのではないかと思ったのです。

アフリカのいい面を知ってもらうための“空間”、“アフリカで活動する人”と“アフリカのことを知りたい人”をつなぐ“場”としてのトライブスはこれからもアフリカと日本、アフリカ関係者とアフリカのことを知りたい人の交流のための“サロン”でありたいと考えています。

アフリカ料理 神楽坂トライブス (Tribes) 石川邦彦



ヤルカ村ミツバチの森プロジェクト



養蜂箱を用いた蜂蜜採取の様子。

「緑のサヘル」が支援活動を行なっている
congou地域において、周辺に森林が残って
いるヤルカ村で、2011 年から養蜂箱を用い
た蜂蜜採取のプロジェクトを進めています。

現地では、伝統的なやり方で養蜂が行なわ
れています。木の枝を筒状に編んだ道具が使
われますが、蜂の巣がしっかりと形成されて
いるか確認できないため、蜂蜜の採取量が不
安定でした。また、ミツバチが入り易いよう

に木の高いところに置かれるため、採取する
際に木から落ちることもあり、危険でした。

プロジェクトでは、木の下に置ける養蜂箱を 7 箱用意し、蜂の巣の状態が確認出来る
ようになりました。また、安全な採取を行なうために、防護服や長靴を配備しました。7 箱
の養蜂箱には全てミツバチが巣を作っており、6 リットルの蜂蜜が採取できました。

JICA 草の根技術協力事業

ブルキナファソにおける 2011 年の穀物
の収穫量は、前年比で 19%減となりました。
現在、首都ワガドゥグでは緊急措置として、
政府によって備蓄されている穀物が放出され
ていますが、充分ではありません。市場で販
売される穀物には、昨年と比べて倍の値段が
つけられています。

プロジェクトを行なっているcongou地域
でも穀物生産は不振で、前年比で 40%減と
なりました。特に地域の主食、ソルガムの生
産が激減し、住民の食生活を直撃しています。



石堤の効果で、収穫は良好でした。

幸いにも、草の根技術協力事業を行なっているロルガ村とタンギエマ村では、平年並み
の収穫ができました。両村で進めている、雨水を有効に利用できるディグット（石堤）の
設置と、水涸れを起こさせないザイ農法を用いた栽培の成果が発揮されました。おかげで、
1 日 3 食の食事で 8 か月分以上の穀物を備蓄することができました。



小学校緑化支援プロジェクト



大きく成長した苗木に、生徒も喜んでいます。

コングシ地域の小学校 19 校を対象に行なっている緑化支援プロジェクトは、順調に進んでいます。

2007 年から続けているプロジェクトですが、生徒や教師、保護者による苗木の植え付けや囲いの設置、水やり等、意欲的な取り組みのおかげで、苗木は大きく成長しています。遠くから見ても立派な木立のようになっており、太陽にさらされていた校庭に、木陰ができました。

自分たちで世話をした苗木が大きくなったことに力づけられ、どの小学校もいっそう積極的になっています。昨年は、合計 760 本の苗木が新たに植えられました。間もなく成績発表会が行なわれる予定になっていますが、各校とも優秀で、これまで以上の接戦になりそうです。

コラ村とバイエンフルゴ村における環境回復プロジェクト



コラ村に植えられたユーカリの苗木。

株式会社リコーからのご支援を受けて、昨年の 12 月、コラ村とバイエンフルゴ村において、植林活動を行ないました。

予定では、植林に適した雨季に行なうつもりでしたが、ブルキナファソの治安情勢が悪化していたため渡航ができず、準備作業が遅れてしまいました。また、昨年の雨季は降雨が思わしくなかったため、住民は種の蒔き直などの農作業に追われ、植林活動を行なう余裕がありませんでした。

大幅に遅れての実施となってしまいましたが、コラ村では、目の前にバム湖が広がっている土地に、ユーカリとマンゴの苗木、計 2,000 本が植えられました。また、バイエンフルゴ村では、これまでの植林サイトの近くに、コラ村と同様の苗木が植えられました。植えられたばかりでまだ小さいですが、住民のしっかりとした管理によって、大きく成長して行くことを確信しています。

タンザニアから



今後の展望



調査を行なったムワンザ州
(左)とタンガ州(右)

昨年、タンザニアにおける新たなプロジェクトの可能性を検討するため、ムワンザ州とタンガ州の3県で調査を行ないました。

現地の NGO の協力を得て、複数の村での聞き取りや、関係省庁からの情報収集を行ないました。その結果、これまで活動を実施してきた西アフリカ・サヘル地域の国々と異なる部分はあるものの、地域植生の劣化に伴う生活への負担増加という点では、共通するものがありました。

この調査を通して、プロジェクトの可能性はつかめましたが、実施に向けて準備しなければならないことが、まだまだたくさん残されています。時期を見ながら、具体的な活動プランの作成等、必要となる手順や手続きを進めていくつもりです。

チャドから



今後の展望

既にお伝えしているとおり、チャドでは、昨年の穀物栽培が降雨不足によって大打撃を受け、収穫量が大幅に落ち込みました。加えて、リビアから戻ってきた人々が大勢おり、食料事情がいっそう厳しさを増しています。

状況を正確に把握するためにも、現地に出たいのですが、現状では日本からの入国が難しくなっています。しかし、2007年以來、同じ状況が続いており、このままではいつまでもたっても活動再開の目処が立たないことになりかねません。



2000 年は降雨不足により壊滅的な収穫だったため、2001 年には飢饉が発生しました。

今、何が出来るのかを知るために、チャド入国に向けて可能な限りの方法を検討するつもりです。

国内活動



今期も様々な会合やイベントが催されました。毎年恒例となっているチャリティ・コンサート（主催：アフリカの砂漠で木を植えている日本青年を支援する会等）が大阪で開催されたほか、「毎日地球未来賞」の授賞式もありました。

< 東京事務局での主な活動一覧 >

2月	2日(木)	東京女子学院中学校（3年生7名）	講演	(菅川)
	3日(金)	「飢餓削減のためのネットワーク」運営委員会 (主催：ゼロ・ハンガー・ネットワーク)	出席	(岡本)
	14日(火)	チャリティ☆ナイト 「正しい口説き方～カラハリ最新恋愛事情～」	共催	
	23日(木)	認定NPO 法人「国境なき医師団」との会合	出席	(岡本)
	29日(水)	「第1回毎日地球未来賞」表彰式・受賞記念講演会	出席	(岡本)
3月	7日(火)	「世界食糧デー」ミーティング	出席	(岡本)
	13日(火)	(株)毎日新聞社より取材 チャリティ☆ナイト 「ブルキナファソを知ろうく水編」 小学校にきれいな水を！」	出席 共催	(岡本)
	19日(月)	途上国森づくり事業「貧困削減のための森づくり」検討委員会 (主催：海外林業コンサルタンツ協会・国際緑化推進センター)	出席	(岡本)
	23日(金)	タンザニア・プロジェクト形成調査報告会（国際緑化推進センター）	報告	(町)
4月	10日(火)	チャリティ☆ナイト 「ブルキナファソを知ろうく食編」 飢餓・ 栄養不良を終わらせるために連携しよう！」	共催	
	15日(日)	チャリティ・コンサート 「森麻季&横山幸雄 スペシャル・デュオ」	参加	
	24日(火)	「世界食糧デー」ミーティング	出席	(岡本)

チャリティ☆ナイトが開催されました！

東京神楽坂にあるアフリカ料理のお店「トライブス (Tribes)」で、毎月第2火曜日に開催されている「チャリティ☆ナイト」。2008年11月から始まったこのイベント、毎回アフリカに詳しい講師が様々な話題を紹介して下さり、「食べながらアフリカを学べる」と好評です。

2月は「(特活) アフリック・アフリカ」の丸山淳子さんが、南部アフリカの狩猟採集民サン(ブッシュマン)の最新恋愛事情について、3月は当団体の町慶彦が、ブルキナファソの小学校を中心とした水事情について、4月はFAO(国連食糧農業機関)日本事務所の大軒恵美子さんが、飢餓と栄養不良を終わらせるための取り組みについて、それぞれお話して下さいました。皆さんも、機会があったらぜひご参加下さい！



オクラのソース付きのヤム芋や、ヤギのケバブなど、イベント当日は特別限定メニューになります。



4/15、チャリティ・コンサート開催！！



去る4月15日(日)、毎年恒例となっているチャリティ・コンサートが、大阪府池田市民文化会館にて開催されました。

今年はソプラノ・森麻季さんとピアニスト・横山幸雄さんのデュオリサイタルでした。森麻季さんの美しい声でオペラ・アリアが披露され、横山幸雄さんがショパン・エチュードやリストを鮮やかに奏でられて、とても華麗な舞台となりました。

なお、このコンサートは「(財)いけだ市民文化振興財団」、「アフリカの砂漠で木を植えている日本青年を支援する会」、「中西クリニック」の主催、「池田市」、「池田市教育委員会」、「池田市公益活動促進協議会」の後援で開催され、その収益から100万円が「緑のサヘル」に寄付されました。森麻季さん、横山幸雄さん、関係者の皆さん、お集まりくださった皆さん、本当にありがとうございました。

新スタッフのご紹介とお別れ

この度、長年活動を支えてくれた町慶彦さんと鈴木香織さんが、当団体を離れることになりました。ほんわかとした雰囲気でもいつも事務局を和ませてくれたお2人、お疲れ様でした！また、新たにブルキナファソが大好きな田村典子さんがスタッフとして加わりました。活躍が期待されます。



2008年9月に参加して以来、タンザニアでの委託事業と国内事業を担当してきました。「緑のサヘル」での3年半は、スタッフや支援者の方々からの温かいサポートがあったからこそものだと、今更ながら実感しています。これからは、大きく変動を続ける生活環境の中で、自分がどのように社会に貢献できるかを見極め、「緑のサヘル」で培った経験を糧に邁進していきたいと考えています。皆さま本当にどうもありがとうございました。(鈴木)

優しく、理解のあるスタッフ。私たちを信用してくれ、一生懸命活動に取り組んだ現地の人達。暖かく見守ってくれた支援者の方々。私はこのような人達に囲まれ、恵まれた環境で5年間働いたことを誇りに思います。「緑のサヘル」を離れることは寂しい限りですが、ここで学んだことを胸にとめて、今後がんばりたいと思います。(町)



2月から、「緑のサヘル」のスタッフ(プロジェクト調整員)になりました。元ブルキナファソの青年海外協力隊であり、その後も何度かブルキナファソへ渡航してしまった程のブルキナファソ好き。今後、ブルキナファソの最新情報をいち早く皆様へお届けできるよう、またブルキナファソの現地の人々の生活がより良くなるよう頑張りますので、どうぞよろしくお願い致します！(田村)



ありがとうございました

* 敬称は略させて頂きました。

【 新規会員のみなさま 】

吉川千尋／竹越久美子

【 継続会員のみなさま 】

木嶋清江／舩田クラセンさやか／山田規矩子／立屋敷哲／田中ちえ子／金明希
手嶋千恵子／河村ミヨ子／木全由規／碓井道子／門村浩／大池良平／菅沼浩敏
永井邦子／中村洋／澤井温子／村井智恵子／菅川映子／大久保久美子
徳永美和子／永田ひろ子／高橋まり子

【 ご寄付を頂きました 】

個別教育フォレスト 安多秀司／手塚太郎／賀川麻衣／安倍良／赤山美苗／上富弘子
田中ちえ子／信野正夫／村上和代／榎本みつ枝／加納愛子／氏岡治代／山田規矩子
碓井道子／丹邦子／WE21 ジャパンとつか／Stand Up!KANAZAWA!事務局／高松千枝子
(公財)毎日新聞東京社会事業団／宮本政子／小林伸張／村井智恵子
葛原睦子／高橋靖明／中尾進一、康子／岡本美智子／大久保久美子／梅田暢子
竹越久美子／小池昌子／小笠原弘子／倉沢昌子／井上茂

【 ハガキ・切手などを頂きました 】

佐々木順平／菊地博子

上記は 2012 年 2 月 1 日から 2012 年 4 月 30 日までにご支援頂いた方、また、それ以前にご支援頂き、お名前を掲載できなかった方のご芳名であり、2012 年 5 月 1 日以降にご支援下さいました方については、次号の掲載とさせて頂きました。

【 協力団体・助成団体 】

アフリカの砂漠で木を植えている日本青年を支援する会／(独)国際協力機構(JICA)
(公財)毎日新聞東京社会事業団／(公財)イオン環境財団(環境活動助成)
緑の募金(管理団体:(社)国土緑化推進機構)／(特活)ハンガー・フリー・ワールド
(株)サティスファクトリー／(財)農村更生協会 ハヶ岳中央農業実践大学校
アフリカ料理 神楽坂トライブス／(特活)国際協力 NGO センター
(社)日本経済団体連合会／国際連合食糧農業機関(FAO)／(社)国際農林業協働協会
(財)国際緑化推進センター／igreen(管理団体:seap)／(株)グリムス
(特活)環境アリーナ研究機構／立正佼成会一食平和基金

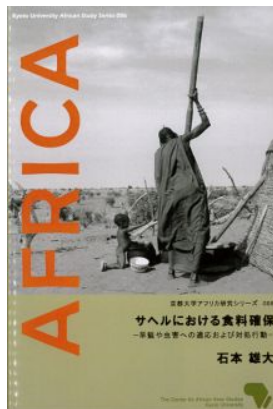
画像を提供しました

❀ (株)コーエイ総合研究所 埼玉大学特別教育プログラム「Global Youth」
3 年次必修科目「開発援助における環境」の副教材
❀ 東京書籍(株) 『平成 24 年度新しい社会』
❀ (株)帝国書院 『高校生の地理 A』

おしらせ

書籍紹介

サヘルにおける食料確保
—早魃や虫害への適応および対処行動—



「緑のサヘル」が活動が続けているブルキナファソの人々の暮らしを窺い知ることができる一冊をご紹介します！

本書は、アフリカのサヘル地域に暮らす人々による食料確保の実践について書かれた、数少ない書籍でもあります。

乾燥地に生きる農牧民タマシェー彼らが行なう多角的な生業活動と食料危機への対処という2つの視点から「食料確保」が報告されています。またそれらの事例を通し、サヘル地域の人々による自然環境変動へのリスク分散、自然災害の被害緩和が議論されています。

著者の石本氏は当団体と親交が深く、この書も「緑のサヘル」の活動地域で行なった研究活動に基づいて書かれています。

著者：石本雄大（総合地球環境研究所）
出版：京都大学アフリカ地域研究資料センター
定価：本体 2,000 円＋税

【 もくじ 】

- | | |
|---------------|---------|
| 1・表紙 | 5・国内活動 |
| 2・ブルキナファソから1 | 6・事務局より |
| 3・ブルキナファソから2 | 7・ありがとう |
| 4・タンザニア・チャドから | 8・お知らせ |

< 編集部より >

●ブルキナファソに到着した翌日、激しい雨が降りました。現地はまもなく雨季です。今年の雨季は、順調であることを願っています。（岡本）●あの震災からもう1年…いえ、震災はまだ続いています。（菅川）●食欲が増えるばかり…食欲減退の方法をご存知の方、是非私まで！（田村）●毎年悩まされている花粉症、今年はかなり楽でした。（木藤）

ご贈答品・ご挨拶に
どうぞ

ハケ岳農場の特産品

ハケ岳中央農業実践大学校の特産品がさらに充実しました。これまでの手作りチーズとアイスクリームに加えて、チーズケーキ、カレー、ソーセージなど、ハケ岳の新鮮な材料と確かな技術から生まれた品々が勢揃いの10セットです。各地への送料を含めた価格は下記の表のとおりです。

大学校のご厚意により、お求めごとに定価の20%が当会に寄付されます。

【お申し込み方法】

郵便振替用紙に、ご依頼人様とお届け先様のご住所、氏名、電話番号、ご希望セット名と数量をご明記の上、下記までお振込みください。
00140-9-50425「緑のサヘル」

お振り込みから到着まで10日程かかります。

		関東 信越 北陸 中部 南東北	関西 北東北	中国	四国	北海道 九州	沖縄
A	アイス10個	3,800	3,900	4,010	4,110	4,210	4,420
B	アイス20個	6,400	6,500	6,610	6,710	6,810	7,020
C	チーズ	3,800	3,800	3,800	3,800	3,800	3,800
D	アイス / ケーキ2種	3,800	3,900	4,010	4,110	4,210	4,420
E	ムース	4,930	5,030	5,140	5,240	5,340	5,550
F	ケーキ	4,930	5,030	5,140	5,240	5,340	5,550
G	カレー / チーズ	5,000	5,100	5,210	5,310	5,410	5,620
H	ケーキ2種	3,230	3,330	3,440	3,540	3,640	3,850
I	カレー	3,580	3,680	3,790	3,890	3,990	4,200
J	チーズ / ソーセージ	5,730	5,830	5,940	6,040	6,140	6,350

内容の詳細をご希望の方は、事務局までご連絡ください。詳細チラシをお送りいたします。

La Forêt, C'est la Vie !

Vol. 50

編集 菅川拓也 岡本敏樹 田村典子 木藤絢乃 / 印刷 社会福祉法人東京コロニー

発行所 緑のサヘル ホームページ: <http://sahelgreen.org/> E-mail: agsj_tokyo@sahelgreen.org

〒101-0035 東京都千代田区神田紺屋町16番地 田澤三ビル3F TEL:03-3252-1040 / FAX:03-3252-1041